

那覇空港 (拠点空港(国管理空港)/国土交通省所管)

NAHA AIRPORT

■空港の概況

那覇空港は、昭和8年に旧日本海軍の「小禄飛行場」として設置されたのが始まりで、その後、福岡～那覇～台湾を結ぶ民間定期便が就航されたことから、軍民共同で使用されていた。

昭和20年6月、米軍の沖縄占領に伴い、「小禄飛行場」は米空軍那覇飛行隊が「那覇飛行場」として管理することになった。その後、大規模な拡張工事が行われ、今日の空港にほぼ近い姿となった。

昭和47年5月15日、沖縄の本土復帰に伴い「那覇飛行場」は米軍管理の手を離れ、旧運輸省所管の第二種空港に指定(運輸省告示236号)され、名称も「那覇空港」に改められた。同時に第二次空港整備5箇年計画に組み入れられ、滑走路長2,550mから2,700mに延長するなどの整備拡充が行われた。

そして昭和50年4月には、同年7月に開催される沖縄国際海洋博覧会に対応するために、暫定ターミナル地区(旧国内線第一ターミナルビル)が完成供用された。その後、年々増加する那覇空港の航空需要に対応するために、空港基本施設の整備が着々と進められた。特に昭和57年10月より滑走路を300m延長する工事に着手し、昭和61年3月より滑走路長3,000mの供用を開始している。

昭和62年9月に開催される沖縄海邦国体に向け、昭和59年からターミナル地域の整備に着手し、昭和61年6月に国際線ターミナルビル、昭和62年2月に旧第二国内線ターミナルビルなどが完成した。

平成2年度には、国際線就航用の大型ジェット機に対応するために誘導路の拡幅を行うと共に老朽化した滑走路の嵩上げやグルーピングを実施した。

しかし、那覇空港利用者の増加に伴い狭隘化が著しくなった旧国内線第一ターミナルビルと、分散立地していた旧国内線第二ターミナルビルを一つに統合する計画などを盛り込んだ「ターミナル地域整備計画」が平成4年8月に策定され、平成11年5月、現在の那覇空港国内線旅客ターミナルビルが供用開始された。なお、新ターミナルビルの建設、管理、運営については、平成4年12月に設立された「那覇空港ビルディング株式会社」が行っている。

さらに、平成13年7月には、台風通過後に離島線の運航を直ちに再開できるようにと、台風時避難用エプロンが供用を開始した。

また、平成15年8月には都市モノレールが供用開始されたことで、那覇空港へのアクセスが向上された。

その後、施設の狭隘化・老朽化に対応するとともに、アジア・ゲートウェイ構想に対応した国際物流拠点形成に向けた対策として「那覇空港ターミナル地域整備基本計画」が平成20年10月に策定され、諸施設の整備を推進している。

平成21年10月には新貨物ターミナルビルが供用を開始し、那覇空港を中継拠点として日本とアジアの主要都市を結ぶ貨物専用機による国際貨物事業が始まった。

また、国内線旅客ターミナルビルの狭隘化のため、暫定的に貨物ターミナルビル内においてLCCターミナルが平成24年10月に供用開始し、国際線施設は平成26年2月に供用開始した。

さらに、今後、増加が見込まれる国際線の航空需要にも対応できるよう新国際線旅客ターミナルビルが整備され、平成26年2月に供用開始した。

また、沖縄県が取り組んでいる航空機整備事業(MRO: Maintenance, Repair, Overhaul)を中心とした航空関連産業クラスター形成の核として、那覇空港西側地区に格納庫が建設され、平成31年1月より事業を開始している。

平成31年3月、更なる旅客数増加への対応及び国内線から県内離島便あるいは国際線への乗り継ぎなど旅客の利便性向上を図るため、際内連結ターミナル施設が供用開始され、同時にLCCターミナルも同施設へ移転した。

また、那覇空港滑走路増設事業の一環で、現滑走路と新滑走路の間に位置し現空港施設内及び新滑走路の視認が容易に確保できる那覇空港西側地区に新管制塔が建設され、令和2年1月より運用を開始している。

令和2年3月には、那覇空港第二滑走路が供用を開始した。

■那覇空港滑走路増設事業

平成14年度に国土交通省で行われた交通政策審議会の答申において、既存施設の有効活用を図りつつ、滑走路増設を含めた抜本的な空港能力の向上方針について、幅広い合意形成を図りながら、国と地域が連携して総合的な調査を進める必要があることが示された。

これを受けて、国と県では平成15年度よりパブリック・インボルブメント(P I)の手法を取り入れながら、滑走路増設に向け、総合的な調査や構想段階・施設計画段階における検討を行ってきた。環境影響評価や公有水面埋立の手続きを経て、平成26年1月より那覇空港滑走路増設事業の工事に着手した。現空港の沖合160haを埋め立て、延長2,700mの滑走路を増設するとともに、高さ88mの新管制塔等を整備し、令和2年3月に第二滑走路を供用開始した。

那覇空港は県民生活を支えるとともに、多くの観光客が利用する重要な社会基盤施設であり、航空旅客数は今後も増加していくことが見込まれることから、空港能力の向上が重要な課題となっている。



那覇空港事務所

住所：那覇市字安次嶺531-3

電話：098-857-1101

AIRPORT of OKINAWA



■位置図

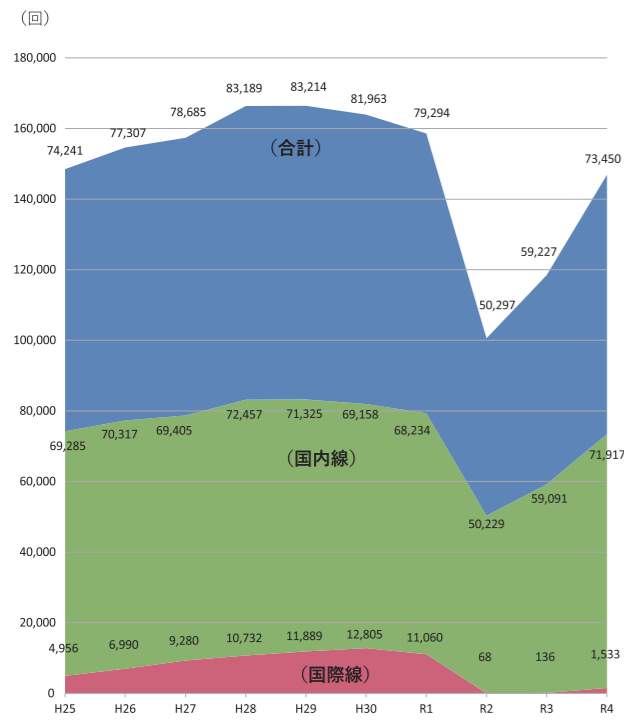


▲ターミナルビル

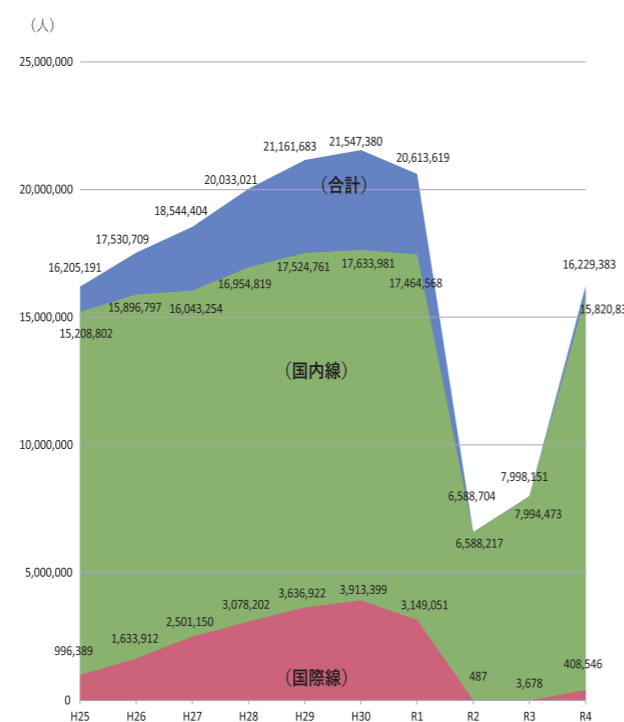
■空港施設概要

項 目	概 要	
所 在 地	沖縄県那覇市	
敷 地 面 積	4,935,598㎡	
空 港 の 位 置	北緯26° 11' 36" 東経127° 38' 23" 標高3.3m	
基 本 施 設	着陸帯	A 長さ 3,120m 幅 300m B 長さ 2,820m 幅 300m
	滑走路	A 長さ 3,000m 幅 45m B 長さ 2,700m 幅 60m
		誘導路
	エプロン	面積 493,353㎡
		大型ジェット機用
中型ジェット機用		17バース
小型ジェット機用		13バース
その他(プロペラ機用)		2バース
小型機用	23バース	
航 空 灯 火	進入灯、進入角指示灯、外1式	
貯 油 タ ン ク	3,394kℓ × 3基 3,999kℓ × 2基	
航 空 援 助 施 設	ILS(計器着陸装置) 3式	
	VOR/TAC(空港方位、距離、測定装置) 1式	
	GCA	ASR(空港監視レーダー) 2式 PAR(精測進入レーダー) 2式
		管制用対空通信施設(VHF、UHF) 計46波
ATIS(空港情報放送装置)VHF、UHF 計2波		
消 火 救 難 設 備	大型化学消防車 3台、救難照明車 1台 医療搬送車 1台、給水車 1台	
駐 車 場	立体駐車場 2,472台	
旅 客 ターミナルビル	162,216.33㎡	
貨 物 ターミナルビル	44,275㎡	
運 用 時 間	24時間	

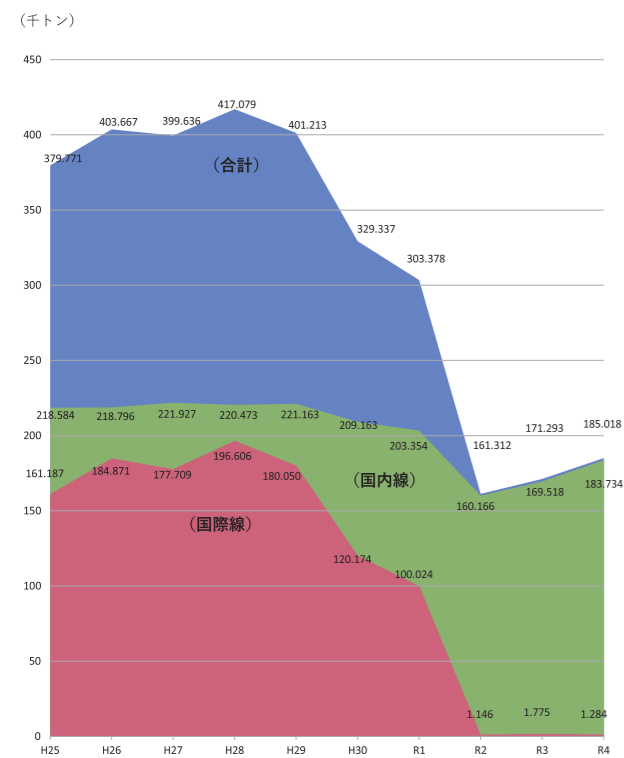
■着陸回数の推移



■航空旅客数の推移



■航空貨物取扱推移



守礼門（那覇市首里）



平和祈念公園（糸満市摩文仁）

■沿革

- 昭和 6年 旧日本海軍により飛行場の建設が計画される。
- 昭和 7年 旧日本海軍飛行場建設に着手。
- 昭和 8年 「海軍小禄飛行場」の完成。2本のくの字型滑走路。(L=750m)
- 昭和11年 日本航空輸送(株)(日本航空の前身)がフォッカーF7/3M型機で台湾航空路(福岡~那覇~台湾)開設。通信省航空局の管理「那覇飛行場」となる。
- 昭和17年 海軍運送部の管理「海軍小禄飛行場」なる。
- 昭和20年 米国空軍那覇飛行場の管理「那覇飛行場」となる。
- 昭和22年 パン・アメリカン航空による乗り入れ開始。(東京~那覇~香港~マニラ)
- 昭和27年 2月15日那覇飛行場の滑走路等軍用施設及び民間空港区域整備工事に着手。このため、那覇飛行場への民間機の乗り入れは昭和29年11月14日まで禁止され、嘉手納飛行場が代替空港となる。
- 昭和29年 日琉航空開設で日本航空がDC-6Bで国際線として定期便を就航させる。(東京~那覇)
- 昭和31年 沖縄旅行社がCAT航空会社とチャーター契約による先島定期航空路線を開設(那覇~宮古~石垣)。那覇空港ターミナル(株)設立。
- 昭和33年 琉球航空運輸株式会社設立。先島定期航空路線を受け継ぐ。
- 昭和34年 旅客ターミナル完成(旧国際線ビル、現在の第2ターミナルの位置)。
- 昭和35年 ノースウエスト航空がDC-8を就航させる。これにより大型ジェット化が進む。
- 昭和36年 那覇空港ターミナル(株)が琉球航空運輸を吸収合併し、那覇空港ターミナル琉球航空部として先島運輸を継続。
- 昭和39年 エア・アメリカ社が先島航空路に就航。那覇空港ターミナル(株)琉球航空部、先島線航行中止。
- 昭和42年 南西航空(株)が設立され、CV240,H-18により、那覇~宮古、那覇~石垣、那覇~久米島、那覇~南大東、石垣~宮古、石垣~与那国の6路線の定期航空運送事業を開始。
- 昭和43年 南西航空YS-11を就航させる。
- 昭和47年 5月15日本土復帰。運輸省所管の第二種空港「那覇空港」として運用開始。滑走路2,700mとなる(150m延長)
- 昭和48年 日本航空が東京~那覇線にボーイング747SRを就航させる。
- 昭和56年 滑走路延長(2,700m→3,000m)。
- 昭和61年 3月13日、滑走路3,000mの供用開始。
6月、新国際線ターミナルビル及び道路駐車場完成。
- 昭和62年 2月、第2国内線ターミナルビル及び道路駐車場完成。
本土線エプロン(大型用2バース)完成。
- 平成 8年 4月、西側エプロン全面供用開始。
- 平成11年 5月国内線新旅客ターミナルビル及びそれに伴う新スポット併用開始。
- 平成12年 7月西側小型機用エプロン併用開始。
- 平成13年 7月台風時避難用エプロン併用開始。
- 平成15年 8月沖縄都市モノレール「ゆいレール」開業。
- 平成21年 10月25日、那覇空港新貨物ターミナルビル供用開始。
- 平成21年 10月26日、全日本空輸国際貨物事業始動(深夜貨物定期便就航 成田・羽田・関西~那覇~ソウル・上海・香港・台北・バンコク)
- 平成24年 10月18日、LCC専用ターミナルが供用開始。
- 平成26年 2月17日、新国際線ターミナルビルが供用開始。
- 平成26年 1月、那覇空港滑走路増設工事着工。
- 平成28年 7月、立体連絡通路供用開始。
10月、国際線増設コンコース供用開始。
- 平成31年 1月7日、航空機整備(MRO)事業開始。
- 平成31年 3月18日、際内連結ターミナル施設供用開始。
- 令和 2年 1月15日、新管制塔供用開始。
3月26日、第二滑走路供用開始。



首里城正殿※焼失前（那覇市首里）